

平成28年3月期
第2四半期決算説明会

平成27年11月9日

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>

I

平成28年3月期 上期実績

II

主要施策の状況

III

平成28年3月期 通期見通し

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益等の予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向等、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益等は、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

I . 平成28年3月期 上期実績

平成27年3月期からの変動要因

- ✓ 平成27年4月、「総合システムサービス」を存続会社として「DTS WEST」を吸収合併し、社名を「DTS WEST」に変更
- ✓ 平成27年4月、「DTS」の組込み関連事業の一部を、「アートシステム」に承継(会社分割)し、組込み関連事業を「アートシステム」に集約
- ✓ 「総合システムサービス」の決算期変更(12月決算→3月決算)に伴い、平成27年1月から3月までの3ヵ月分を当期に連結

【連結】平成28年3月期上期 業績実績

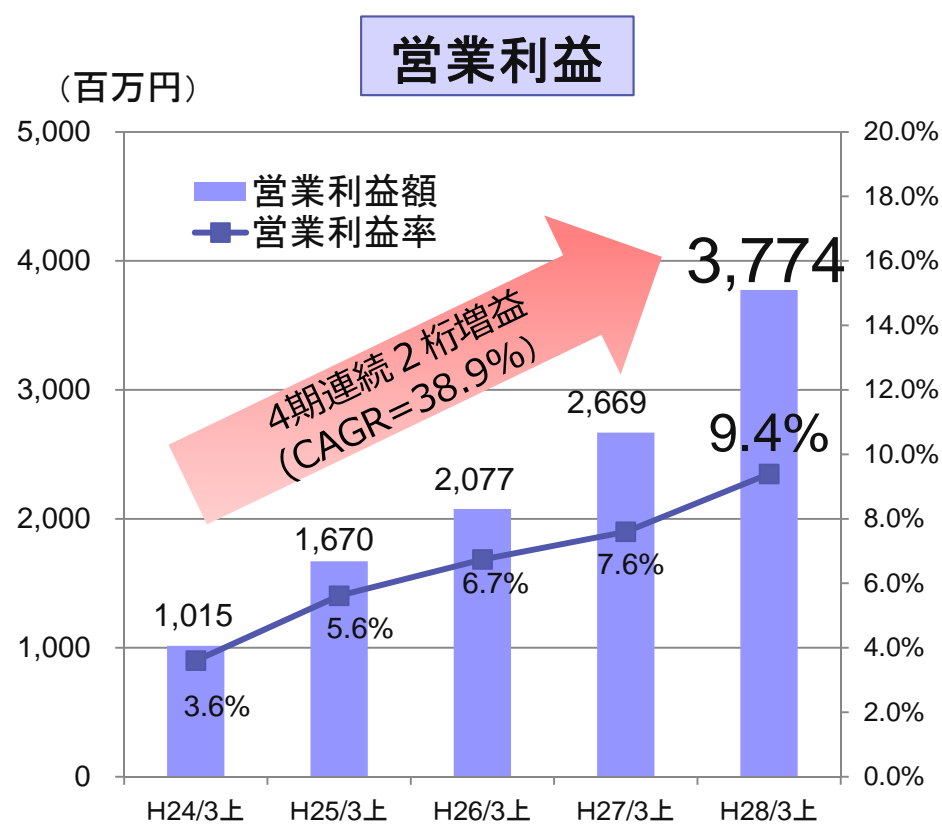
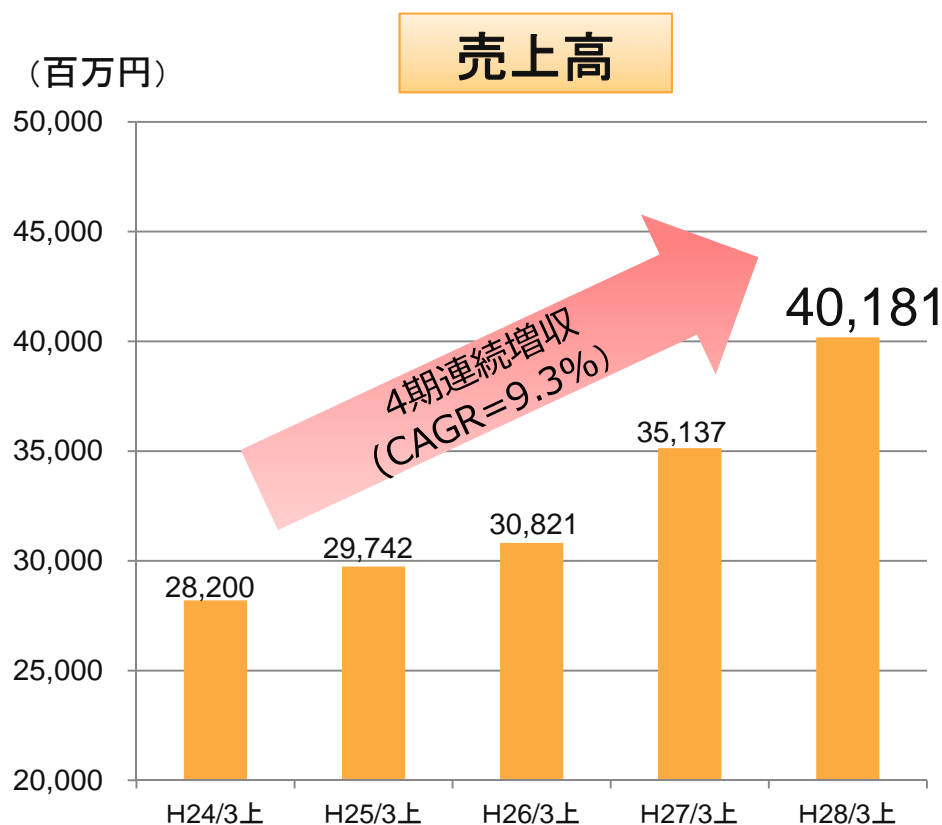


売上高は前年同期比114.4%、営業利益は同141.4%と、大幅な増収増益を達成。営業利益率は9.4%(同+1.8pt)に向上

(単位：百万円、%)	当期実績	売上比	前年同期比		業績予想比	
売上高	40,181	—	114.4%	+5,044	105.7%	+2,181
売上総利益	7,400	18.4%	122.7%	+1,371	110.5%	+700
販管費	3,625	9.0%	107.9%	+266	100.7%	+25
営業利益	3,774	9.4%	141.4%	+1,105	121.8%	+674
経常利益	3,809	9.5%	140.2%	+1,092	120.9%	+659
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,783	6.9%	185.4%	+1,282	116.0%	+383

【連結】売上高、営業利益推移

4期連続で、売上高は増収、営業利益は2桁増益を達成。前期に引き続き、売上高、営業利益ともに過去最高を更新



【連結】平成28年3月期上期 セグメント別売上高



システムは、金融を中心とする幅広い分野の需要拡大を受け増加。
 プロダクトは、前期特需の反動や、顧客の調達内製化等により減少

(単位：百万円、%)	当期実績	売上比	前年同期比		主な増減要因
売上高	40,181	—	114.4%	+5,044	
情報サービス	38,519	95.9%	115.7%	+5,239	
システム	28,842	71.8%	125.9%	+5,927	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、生命保険等の開発拡大 ・サービス業、公共分野等幅広い業種で好調に推移
オペレーション	6,820	17.0%	105.2%	+338	・既存顧客でシェア拡大
プロダクト その他	2,856	7.1%	73.6%	△1,026	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット系企業等の大型案件の需要一巡 ・一部顧客における調達の内製化
人材サービス	1,662	4.1%	89.5%	△195	<ul style="list-style-type: none"> ・人材派遣は主要取引先の契約条件見直し、同業他社との競争激化 ・アウトソーシング業務は規模縮小

【連結】平成28年3月期上期 売上高増加の要因



売上高の増加は、銀行分野の拡大に加え、「サービス、製造、保険、公共」を中心とするシステム開発案件の拡大が寄与

	金額	前年同期比	
売上高	40,181	114.4%	+5,044

前年同期比 プラス要因

■ 銀行分野の拡大による増加
: +31.5億

■ 総合システムサービスの
決算期変更による影響: + 5.3億

■ その他案件拡大による増加: +25.7億

- ・サービス業の拡大 + 7.7億
- ・製造業の拡大 + 7.7億
(うち医療: +1.8億、車載: +1.1億)
- ・保険分野の拡大 + 6.1億
- ・公共その他分野の拡大 + 4.1億

前年同期比 マイナス要因

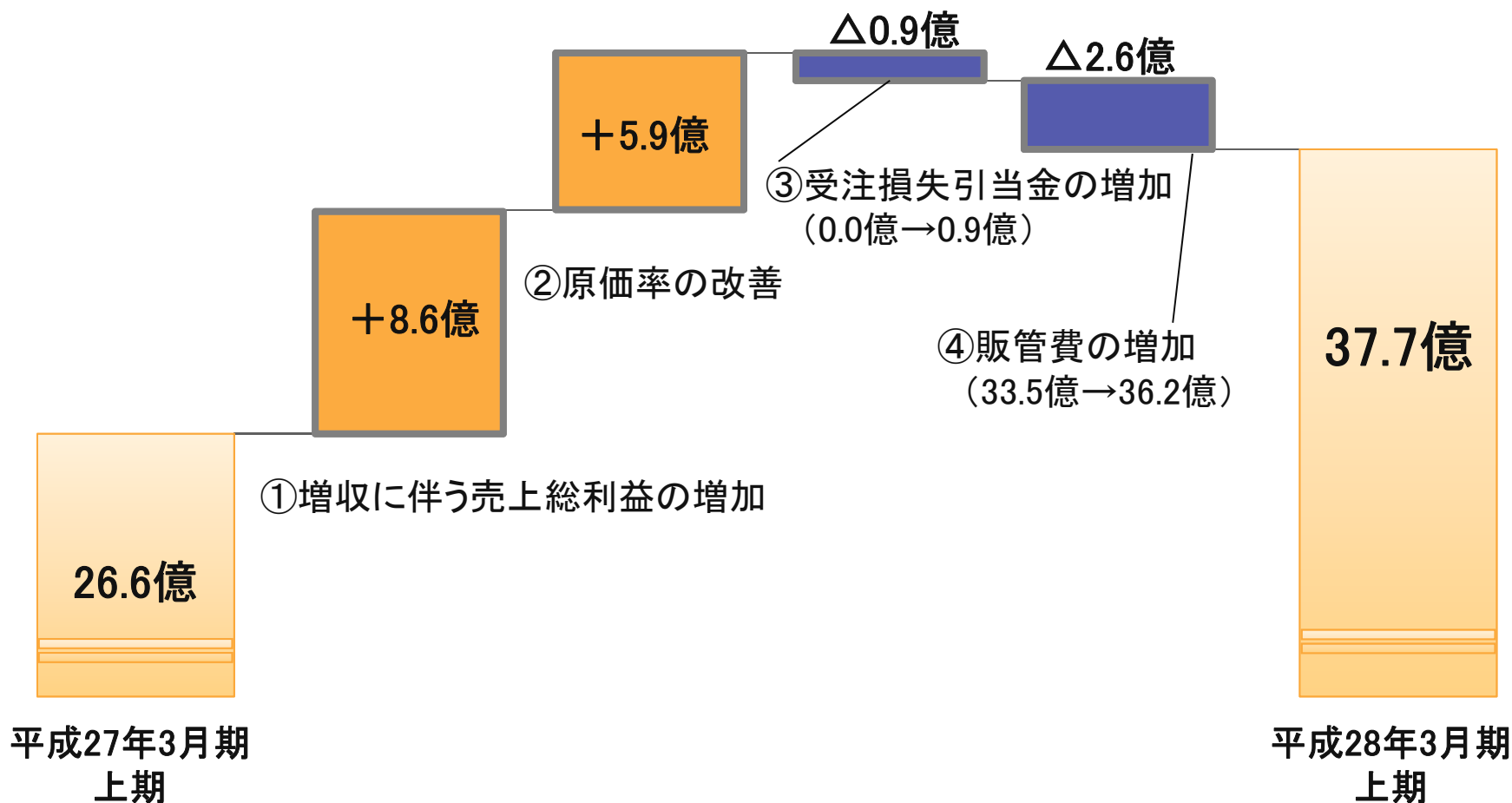
■ プロダクトその他の減少 : Δ10.2億

■ 人材サービスの減少 : Δ 1.9億

【連結】平成28年3月期上期 営業利益増加の要因



販管費は、事業基盤拡充に向けた戦略投資等の拡大により増加したが、販管費の増加を、売上総利益の増加や、グループ全体の原価率の改善による増益が上回り、営業利益額が大幅に増加



【連結】平成28年3月期上期 受注



受注高は、前期のプロダクト特需の反動により減少。
受注残高は、金融、サービスを中心にシステムが牽引し、増加

単位(百万円、%)	受注高				受注残高			
	当期実績	構成比	前年同期比		当期実績	構成比	前年同期比	
連結	31,180	—	96.6%	△1,107	21,292	—	109.8%	+1,900
情報サービス	30,116	96.6%	97.1%	△901	20,281	95.3%	110.8%	+1,968
システム	24,488	78.5%	100.4%	+90	14,930	70.1%	112.9%	+1,702
オペレーション	2,619	8.4%	103.4%	+86	5,073	23.8%	108.7%	+406
プロダクト その他	3,008	9.6%	73.6%	△1,078	276	1.3%	66.5%	△139
人材サービス	1,063	3.4%	83.8%	△205	1,011	4.7%	93.7%	△68

【単体】平成28年3月期上期 業績実績



増収(前年同期比119.4%)増益(同135.8%)で好調。営業利益率も11.6%(同+1.4pt)に向上し、連結業績を大きく牽引

(単位：百万円、%)	当期実績	売上比	前年同期比		計画比	
売上高	27,317	—	119.4%	+4,432	107.1%	+1,817
売上総利益	5,107	18.7%	124.9%	+1,016	111.0%	+507
販管費	1,925	7.0%	110.2%	+177	98.7%	△24
営業利益	3,182	11.6%	135.8%	+839	120.1%	+532
経常利益	3,270	12.0%	135.0%	+848	121.1%	+570
四半期純利益	2,603	9.5%	93.0%	△196	115.7%	+353

【単体】平成28年3月期上期 セグメント別売上高



システムが前年同期比124.3%と大幅に増加。オペレーションは同107.6%と堅調に推移。プロダクトは前期特需の反動により減少

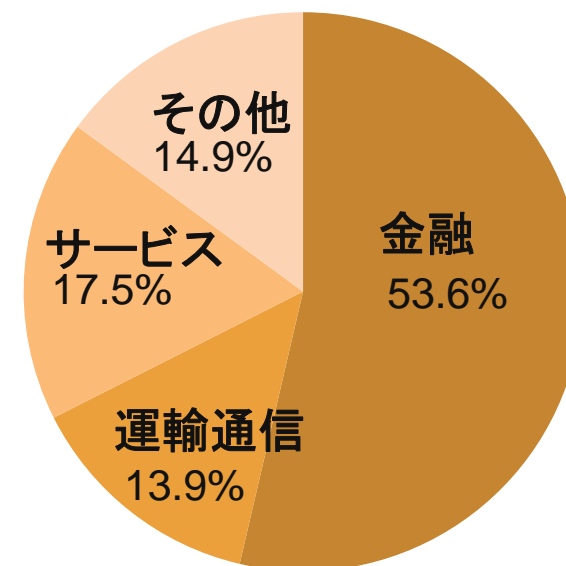
(単位：百万円、%)	当期実績	売上比	前年同期比		主な増減要因
売上高	27,317	—	119.4%	+4,432	
情報サービス	27,317	—	119.4%	+4,432	
システム	21,209	77.6%	124.3%	+4,140	・銀行、生命保険等の開発拡大 ・サービス業、公共分野等 幅広い業種で好調に推移
オペレーション	5,676	20.8%	107.6%	+401	・既存顧客のシェア拡大
プロダクト その他	431	1.6%	79.9%	△108	・WindowsOS更改特需の反動減
人材サービス	—	—	—	—	

【単体】平成28年3月期上期 エンドユーザ別売上高



金融分野は、銀行や生命保険などの案件拡大により大幅増。サービス、公共分野などの他業種も好調に推移し、売上増に寄与

(単位:百万円、%)	金額	構成比	前年同期比	
金融	14,422	53.6%	130.9%	+3,405
運輸・通信	3,738	13.9%	101.7%	+63
サービス	4,706	17.5%	119.8%	+777
その他	4,018	14.9%	107.9%	+294
うち製造	1,532	5.7%	99.2%	△12
うち公共	1,167	4.3%	128.8%	+260
うち卸小売	718	2.7%	119.2%	+115
システム+オペレーション	26,886	100.0%	120.3%	+4,541



- 金融** : 銀行の大規模システム統合等が拡大。生命保険の開発案件も増加
- 運輸・通信** : 通信は主要顧客の投資抑制の継続により減少するが、運輸は更改需要等が拡大
- サービス** : 新規顧客獲得等により、好調に推移
- その他** : 公共は、年金一元化等により拡大。製造は、組込み事業のグループ会社へ2.6億移管したため実質的には2.5億の増加

参考)【グループ会社】平成28年3月期上期 業績実績



(単位:百万円、%)	売上高			営業利益			
	社名	金額	前年同期比	金額	売上比	前年同期比	
データリンクス	3,906	102.0%	+77	150	3.9%	122.1%	+27
デジタルテクノロジー	3,110	81.2%	△719	86	2.8%	147.3%	+27
日本SE	2,314	110.5%	+219	136	5.9%	290.0%	+89
横河デジタルコンピュータ	1,494	100.2%	+2	22	1.5%	80.0%	△5
DTS WEST*	1,222	97.1%	△36	10	0.8%	8.5%	△111
アートシステム*	1,104	282.2%	+713	143	13.0%	—	+143
九州DTS	980	174.2%	+417	118	12.1%	544.7%	+96
MIRUCA	229	91.8%	△20	20	9.0%	38.8%	△32
DTSアメリカ	149	263.8%	+92	25	16.9%	329.7%	+17
DTS上海	137	109.9%	+12	△1	—	—	△18
総合システムサービス ^(1~3月分)	549	—	—	71	13.0%	—	—

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

※*DTS WESTは、平成27年4月に総合システムサービスと合併しており、前年同期比は総合システムサービスとDTS WESTの単純合算値との比較です。また、アートシステムは、平成27年4月にDTSの組込み関連事業の一部を承継しました。

Ⅱ. 主要施策の状況

①提案力の強化

- ・営業体制の強化
- ・新規案件開拓の推進

②事業基盤の強化とビジネスモデルの変革

- ・金融・通信に続く、第三の柱の創出
- ・プロジェクトの確実な利益確保
- ・グローバルビジネス基盤の確立
- ・新規企画型ビジネスの創出

③グループ経営基盤の拡充

- ・高付加価値人材の育成
- ・グループ構造改革および経営最適化

①提案力の強化

営業会議の改革を実施し、顧客情報の見える化を促進。
新規顧客獲得に向け、新規顧客への提案活動を強化・推進する

■営業体制の強化

- 「営業戦略会議」を、アカウント(主要顧客)単位に実施するよう改革。顧客情報や顧客ニーズの見える化と情報連携の強化で、より顧客のニーズに即した営業活動が可能に。
- 顧客満足度調査の対象顧客を拡大。課題のある現場・プロジェクトで、遅滞なく改善に取り組むことにより、顧客からの信頼の継続的な維持・向上に取り組む。

■新規案件開拓の推進

- 事業本部において、提案活動に関する目標を新たに設定。新規顧客、新規案件への提案活動を促進し、更なる成長に向けた新規顧客の獲得に注力する。

②事業基盤の強化とビジネスモデルの変革

組込み関連事業や海外事業の拡大に向けた取組みを推進。
次なる成長に向け、新規技術や、新規ソリューションの企画開発に
継続して取り組む

第三の柱の創出

- ・平成27年4月にDTSの組込み関連事業の一部を「アートシステム」に集約するとともに、「横河デジタルコンピュータ」との連携を強化。
今後成長が期待される「医療」「車載」分野を中心に事業拡大を目指す。

グローバルビジネス基盤の確立

- ・海外事業拡大に向け、営業コンサルを採用。また海外拠点の管理を強化し、拠点運営基盤の整備に注力。
- ・オフショア開発では、中国、ベトナム地域を中心に発注を拡大。システム開発体制及びコスト競争力の強化を狙い、更なる拡大を目指す。

プロジェクトの確実な利益確保

- ・プロジェクト管理強化への取組みを着実に推進。不採算案件を最小に抑え、利益確保に繋げた。
- ・今後は、開発自動化のトレンドを見据え、生産性の更なる向上、競争力強化に向けた開発・運用自動化の拡大に取り組む。

新規企画型ビジネスの創出

- ・新規技術への取組みとして、ビッグデータ、FinTech、IoT、ロボティクス等、今後のビジネス展開が期待される領域を中心に推進。
- ・関節リウマチ診療支援システムを大学と共同開発し、製品化へ。今後の成長に向けて、複数の新規ソリューション開発投資も継続する。

③グループ経営基盤の拡充

社内認定制度の整備など、各種育成施策を実施し、高付加価値人材の育成を推進。グループ各社のSI力向上施策と併せて、次期中期を見据えたグループ総合力の強化を目指す

■高付加価値人材の育成

- 導入後、7年目となる技術者認定制度の一部見直しを実施。若手社員の高度技術習得を促進し、高レベル認定者の拡大を目指す。
- プロジェクト管理の更なる強化に向け、各種e-Learningコンテンツを全社で活用。PM層・リーダー層を対象にプロジェクト管理研修等を実施することで、問題プロジェクトの減少・撲滅を目指す。
- 海外事業の強化拡大に向け、グローバル人材育成を継続して実施。海外グループ会社へのトレーニー派遣や海外研修等で、海外事業に携わるコア人材の育成を推進する。

■グループ総合力強化







- PMS(開発標準)の、グループ各社への展開を目的とした活動を継続して実施中。今後の更なるグループ間連携強化やグループ品質向上に向け、一層の定着、浸透を図る。

Ⅲ. 平成28年3月期 通期見通し

グループ事業環境の見通し



銀行・生保・証券、サービス、公共、製造等で、引き続きIT需要の拡大が続くと見込まれる。金融大型案件は緩やかに体制縮小、通信の投資抑制は継続と想定

業種	IT投資の見通し	
金融	銀行は、大規模案件は工程進捗に伴い、下期から来期にかけて緩やかに体制縮小する見込み。海外案件・新商品開発案件を中心にシステム開発需要は引き続き旺盛。 生保や証券は、主要顧客における投資拡大を想定。	 / 
運輸・通信	通信は、主要キャリアの投資抑制傾向が続くものと見込む。	
	運輸は、空運で基幹システムの更改需要が継続すると想定。	
サービス	企業業績の改善に伴い、幅広い顧客における需要拡大を期待。	
その他	公共は、マイナンバー等において引き続き需要増。 製造は、組込み関連事業等で、車載、医療等の需要拡大を見込む。 卸小売は、ビッグデータ等を使った新サービスに向けた投資に期待。	

平成28年3月期通期 業績予想



期初業績予想の確実な達成を目指すとともに、来期からの次期中期経営計画に向けた『備え』を着実に進める

(単位：百万円、%)	連結				単体			
	金額	売上比	前年同期比		金額	売上比	前年同期比	
売上高	77,000	—	103.2%	+2,390	52,000	—	103.0%	+1,510
売上総利益	14,000	18.2%	106.3%	+826	9,600	18.5%	105.5%	+504
販管費	7,300	9.5%	108.3%	+559	4,000	7.7%	109.6%	+349
営業利益	6,700	8.7%	104.2%	+267	5,600	10.8%	102.8%	+154
経常利益	6,750	8.8%	103.6%	+231	5,650	10.9%	100.7%	+38
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,550	5.9%	123.2%	+857	4,150	8.0%	87.4%	△595

平成28年3月期 配当



第2四半期末配当は、当初予想どおり1株当たり20円を実施。
通期では、前期比5円増配の1株当たり55円を見込む

	第2四半期末	期末	年間	配当性向 (連結)
平成28年3月期	20円	(予)35円	(予)55円	(予)28.4%
平成27年3月期 (参考)	15円	35円	50円	31.9%

平成28年3月期
第2四半期決算説明会

ご清聴ありがとうございました

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>